

私立大学図書館協会

2007年度 東地区部会

部 会 総 会
館 長 会
研 究 講 演 会

2007年6月22日(金)

於:国際基督教大学

私立大学図書館協会 2007年度東地区部会総会、館長会、研究講演会資料

目 次

<部会総会>

部会総会次第	1
--------	---

I 報告事項

1. 2006年度東地区部会報告

I 部会	5
------	---

II 研究部	9
--------	---

2. 2006年度協会関係会務報告	12
-------------------	----

3. 2007年度私立大学図書館協会委員会および協会関連団体等委員	32
-----------------------------------	----

II 協議事項

1. 2006年度東地区部会決算報告及び監査結果	37
--------------------------	----

2. 2006年度東地区部会研究部決算報告及び監査結果	38
-----------------------------	----

3. 2007年度東地区部会事業計画（案）	39
-----------------------	----

4. 2007年度東地区部会予算（案）	40
---------------------	----

5. 2007年度東地区部会研究部活動計画（案）	41
--------------------------	----

6. 2007年度東地区部会研究部予算（案）	42
------------------------	----

<館長会>

館長会次第	43
-------	----

<研究講演会>

研究講演会次第	45
---------	----

講演「サブジェクト・ライブラリアンと大学図書館」資料	47
----------------------------	----

講演「司書のキャリア開発から考えるデジタル・ライブラリアンの育成」資料	53
-------------------------------------	----

<出席者名簿>	61
---------	----

私立大学図書館協会 2007年度東地区部会総会次第

日 時： 2007年6月22日（金） 10:00 ～ 12:00

会 場： 国際基督教大学 ディッフェンドルファー記念館東棟1Fオーディトリウム

開会の辞 司会者（会場校） 国際基督教大学図書館 松山 龍彦

開会の挨拶 部会長校 帝京大学メディアライブラリーセンター館長 岡田 泰男

挨拶 会長校 中央大学図書館長 古城 敏明

挨拶 会場校 国際基督教大学学務副学長 森本 光生

議長選出 司会者（会場校） 国際基督教大学図書館 松山 龍彦

開会宣言 議長

部会成立状況

新規加盟校紹介

<議 事>

- I 報告事項：1. 2006年度 東地区部会会務報告及び研究部活動報告
- 2. 2006年度 協会関係会務報告
- 3. 2007年度 私立大学図書館協会委員会及び協会関連団体等委員
- II 協議事項：1. 2006年度 東地区部会決算報告及び監査結果
- 2. 2006年度 東地区部会研究部決算報告及び監査結果
- 3. 2007年度 東地区部会事業計画(案)及び予算(案)
- 4. 2007年度 東地区部会研究部活動計画(案)及び予算(案)
- III 承合事項
- IV 懇談事項
- V その他

閉会の辞 司会者（会場校） 国際基督教大学図書館 松山 龍彦

I. 報告事項

1. 2006年度私立大学図書館協会東地区部会報告

I. 部 会

I-1. 東地区部会加盟校数 249校 (2006年9月7日総会承認)

① 2006年度加盟校

244	諏訪東京理科大学	(2005年10月25日申請)
245	日本赤十字北海道看護大学	(2006年2月20日申請)
246	高崎健康福祉大学	(2006年3月23日申請)
247	東京医療保健大学	(2006年4月30日申請)
248	独協医科大学	(2006年5月16日申請)
249	デジタルハリウッド大学	(2006年6月26日申請)

② 2007年度新規加盟校 (予定)

2007年3月31日現在

250	駒沢女子大学	(2006年12月5日申請)
251	札幌大谷大学	(2007年1月24日申請)
252	健康科学大学	(2007年3月19日申請)

I-2. 東地区部会総会

日 時：2006年6月9日 (金) 10:00～12:00

会 場：鶴見大学 鶴見大学会館B1メインホール

出席校：90校 (出席者：233名) 委任状：147校 合計：237校

欠席校：6校

司 会：会場校	鶴見大学図書館事務部長	四方田 均
開会挨拶 部会長校	駒澤大学図書館長	松村 格
挨拶 会長校	龍谷大学学術情報センター長	松井 賢一
挨拶 会場校	鶴見大学 学長	柳澤 慧二
議長選出 司会者 (会場校)	鶴見大学図書館事務部長	四方田 均
開会宣言 議長	帝京大学図書館長	飯田 裕康

議 事：

<報告事項>

- (1) 2005年度東地区部会会務報告及び研究部活動報告
- (2) 2005年度協会関係会務報告
- (3) 2006年度私立大学図書館協会委員会及び協会関連団体等委員

<協議事項>

- (1) 2005年度東地区部会決算報告及び監査結果
- (2) 2005年度東地区部会研究部決算報告及び監査結果
- (3) 2006年度東地区部会事業計画 (案) 及び予算 (案)

(4) 2006年度東地区部会研究部活動計画(案)及び予算(案)

<承合事項> なし

<懇談事項> 協会活動活性化策に伴う規程改正等について

<その他> なし

I-3. 東地区部会役員会

第1回役員会

日時：2006年4月21日(金) 13:30～15:30

会場：駒澤大学深沢キャンパス 洋館大ホール

議事：

<報告事項>

(1) 東地区部会関係

① 2005年度東地区部会会務報告

② 2005年度東地区部会研究部活動報告

(2) 協会関係及び協会関連

① 2006年度第1回常任幹事会報告

② その他

<協議事項>

(1) 2005年度東地区部会決算報告及び監査について

(2) 2005年度東地区部会研究部決算報告及び監査について

(3) 2006年度東地区部会事業計画(案)及び予算(案)について

(4) 2006年度東地区部会研究部活動計画(案)及び予算(案)について

(5) 2006年度東地区部会総会・館長会及び研究講演会の開催(案)について

(6) 「役員校等選考に関する申し合わせ事項」の変更について

<懇談事項>

(1) 東北・北海道地区担当理事校の今後のあり方について

(2) 委員の交代について

(3) 協会の事業計画について

(4) その他

第2回役員会

日時：2007年1月26日(金) 15:00～18:00

会場：駒澤大学 246会館 6階会議室(6-2)

議事：

<報告事項>

(1) 東地区部会関係

① 2006年度東地区部会会務報告(4月-12月)

② 2006年度東地区部会研究部活動報告(4月-12月)

(2) 協会関係及び協会関連

- ① 2006年度第2回常任幹事会報告
- ② その他

<協議事項>

- (1) 2006年度東地区部会中間決算
- (2) 2006年度東地区部会研究部中間決算
- (3) 2007・2008年度私立大学図書館協会・東地区部会等委員について
- (4) 2007年度東地区部会事業計画(案)及び予算(案)
- (5) 2007年度東地区部会研究部活動計画(案)及び予算(案)
- (6) 2007年度東地区部会総会・館長会及び研究講演会の開催(案)について

<懇談事項>

- (1) 東地区部会新旧役員校事務引継ぎについて
- (2) 東地区部会「東北・北海道担当理事校」について
- (3) 東地区部会研究分科会会員の追加募集について

I-4. 東地区部会役員会事務連絡会

第1回役員会事務連絡会

日 時：2006年6月9日(金) 9:15～9:50

会 場：鶴見大学 鶴見大学会館B1 第3会議室

議 事：

- (1) 2006年度部会総会について
 - ① 部会総会議長候補及び司会等について
 - ② 部会総会の議事及び報告者について
- (2) 6月9日全体の進行について
- (3) その他

第2回役員事務連絡会

日 時：2006年9月6日(水) 12:00～13:15

会 場：関西学院大学 関学会館 輝の間

議 事

- (1) 私立大学図書館協会2006年度第1回東西合同役員会について
 - ① 2006年度第1回東西合同役員会での報告について
- (2) その他
 - ① 協会関係報告事項
 - ② 協会関連報告事項
 - ・国公立大学図書館協力委員会報告
 - ③ 「研究助成規程」の規程改正について
 - ④ その他

I-5. 東地区部会 館長会

日時：2006年6月9日（金） 12:00～13:30

会場：鶴見大学 鶴見大学会館3階 第2会議室

参加者：48校 48名

懇談テーマ：図書予算の在り方について

司会：鶴見大学図書館長 高田 信敬

I-6. 東地区部会 研究講演会（研究部と共催）

日時：2006年6月9日（金） 13:45～16:45

会場：鶴見大学 鶴見大学会館 B1 メインホール

出席校：87校（出席者：216名）

司会者（研究部運営委員） 早稲田大学図書館

長岡 三智子

挨拶：研究部担当理事校 国士舘大学附属図書館長

廣野 行甫

講演：『Google が図書館に与えるインパクト

－Web の進化との考察－』

一橋大学総合情報処理センター 助教授

兼宗 進氏

講演：『ハイブリッド環境下におけるレファレンス

サービス支援ツールの開発』

慶応義塾大学文学部 教授

田村 俊作氏

I-7. 東地区部会次期役員会選考委員会

日時：2006年4月21日（金） 15:45～16:20

会場：駒澤大学深沢キャンパス洋館大ホール

出席者：青山学院大学、跡見学園女子大学、共立女子大学、國學院大學、中央大学、
帝京大学、東京経済大学、東京農業大学、北星学園大学、国士舘大学、
昭和女子大学、東北学院大学、立正大学、龍谷大学、駒澤大学

議事：

(1) 役員校等選考に関する申し合わせについて

(2) 次期役員候補校選考について

(3) その他

- ① 国公立大学図書館協力委員会委員館並びに専門委員及び主査の選出に関する申し合わせについて

以上

II. 研 究 部

II-1. 運営委員会

- 第1回 2006年 4月 11日(火) 於国士舘大学
- 第2回 2006年 5月 19日(金) 於駒澤大学
- 第3回 2006年 6月 9日(金) 於鶴見大学
- 第4回 2006年 7月 7日(金) 於東京経済大学
- 第5回 2006年 10月 13日(金) 於昭和女子大学
- 第6回 2006年 11月 10日(金) 於法政大学
- 第7回 2006年 12月 15日(金) 於大正大学
- 第8回 2006年 3月 14日(水) 於国士舘大学

運営委員 (任期 2005年4月1日～2007年3月31日)

- 委 員 秋沢 久美子 (駒澤大学)
五十嵐 明子 (法政大学)
石原 智子 (慶應義塾大学)
市川 美香 (昭和女子大学) (2005年4月1日～2005年6月30日)
前之園 香世子 (昭和女子大学) (2005年7月1日～2007年3月31日)
佐藤 研一 (立正大学)
関 達朗 (東京経済大学) (2005年4月1日～2005年5月31日)
久世 泰子 (東京経済大学) (2005年6月1日～2007年3月31日)
長岡 三智子 (早稲田大学)
野口 真生 (大正大学)

研究部担当理事校 国士舘大学

II-2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議

- 第1回 2006年 5月 19日(金) 於駒澤大学
- 第2回 2006年 11月 10日(金) 於法政大学

II-3. 研究会 (交流会)

日 時 : 2006年 11月 10日 (金)
会 場 : 法政大学多摩キャンパス 百周年記念館国際会議場
参加者 : 46校 60名
講 演 :

演 題 : 「魅せる図書館ホームページ」
跡見学園女子大学 文学部助教授 福田 博同

研究分科会活動報告 I

演 題 : 「国立国会図書館のレファレンス協同データベースについて」
レファレンス研究分科会
昭和女子大学図書館 嶋崎 尚代
國學院大学図書館 古越 慶子
桜美林大学図書館 三上 彰

研究分科会活動報告 II

演 題：「ILLの現場から－大阪大学附属図書館生命科学分館見学レポート」
相互協力研究分科会
杏林大学医学図書館
清水 ゆかり

II-4. 研修委員会

- 第1回 2006年 4月 18日 (火) 於明治大学
- 第2回 2006年 5月 9日 (火) 於東京理科大学
- 第3回 2006年 5月 29日 (月) 於早稲田大学
- 第4回 2006年 6月 7日 (水) 於中央大学
- 第5回 2006年 6月 29日 (木) 於慶應義塾大学
- 第6回 2006年 8月 30日 (水) 於慶應義塾大学
- 第7回 2006年 9月 14日 (木) 於慶應義塾大学
- 第8回 2006年 10月 26日 (木) 於国士舘大学
- 第9回 2006年 12月 6日 (水) 於明治大学
- 第10回 2007年 1月 17日 (水) 於東京理科大学
- 第11回 2007年 2月 28日 (水) 於早稲田大学
- 第12回 2007年 3月 15日 (木) 於国士舘大学

研修委員 (任期 2006年 4月 1日～2008年 3月 31日)

- 委員長 浮塚 利夫 (明治大学)
- 委員 岡野 純子 (慶應義塾大学)
- 和田 貴敏 (中央大学)
- 御園 和之 (早稲田大学)
- 光富 健一 (東京理科大学)
- 木下 幸子 (国士舘大学) (2005年 4月 1日～2007年 3月 31日)
- オブザーバー 関 秀行 (慶應義塾大学)

II-5. 研修会

日 時： 2006年 9月 26日 (火) ～27日 (水)
会 場： 慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホール
テーマ： 変化するレファレンスサービスの現状と課題
参加者： 117校 1機関 148名
内 容：

第1日 (9月 26日)

- 基調講演 「大学図書館のレファレンスサービスの現状と課題」
慶應義塾大学 文学部教授 田村 俊作
- 講 演 「デジタルレファレンスの展望と大学図書館」
明治大学 文学部助教授 齋藤 泰則
- 講 演 「記録する・使う・伝える－レファレンス協同データベースの試み－」
国立国会図書館 関西館事業部図書館協力課
協力ネットワーク係副主査 山元 真樹子

第2日 (9月 27日)

- 講 演 「体験的レファレンスサービス論－友達100人できるかな－」
関東学院大学 図書館本館運営課長 高梨 章
- 事例報告 「レファレンスツールとしてのパスファインダー」

－東京学芸大学附属図書館の事例－
東京学芸大学 学術情報部情報管理課 学術資料係長 村田 輝
事例報告 「国際基督教大学図書館のレファレンスサービスの変遷」
国際基督教大学 図書館グループ長 松山 龍彦
講演 「今後のレファレンスライブラリアンの役割とその育成について：
意思決定を行う立場から」
慶應義塾大学 信濃町メディアセンター事務長 市古 みどり

II-6. 研究分科会

次の14研究分科会が、月例研究会、夏期研究合宿等の活動をおこなう。

(2006年4月1日～2008年3月31日)

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| (1) 分類研究分科会 | (8) 西洋古版本研究分科会 |
| (2) 逐次刊行物研究分科会 | (9) 企画広報研究分科会 |
| (3) パブリック・サービス研究分科会 | (10) 和漢古典籍研究分科会 |
| (4) 図書館運営戦略研究分科会 | (11) 北海道地区研究分科会 |
| (5) レファレンス研究分科会 | (12) メタデータ研究分科会 |
| (6) 理工学研究分科会 | (13) 情報リテラシー教育研究分科会 |
| (7) 相互協力研究分科会 | (14) Lラーニング学習支援システム研究分科会 |

研究分科会月例会担当理事校 立正大学

研究分科会更新担当理事校 昭和女子大学

2. 2006年度 協会関係会務報告

1. 協会会務報告

(1) 協会加盟校

① 2006年度新規加盟校 (計 10校)

東地区		西地区	
(受 理 日)	(大 学 名)	(受 理 日)	(大 学 名)
2005. 10. 18	諏訪東京理科大学	2005. 11. 22	大阪青山大学
2006. 2. 23	日本赤十字北海道看護大学	2006. 1. 19	山口東京理科大学
2006. 3. 28	高崎健康福祉大学	2006. 4. 17	福岡歯科大学
2006. 5. 12	東京医療保健大学	2006. 4. 28	岐阜医療科学大学
2006. 5. 22	獨協医科大学		
2006. 6. 26	デジタルハリウッド大学		

* 2006年度加盟校数 (承認後)

東地区	249校
西地区	247校
合 計	496校

② 2007年度新規加盟校 (予定) (2007年4月1日現在)

東地区	駒澤女子大学	(2006年12月13日受理)
	札幌大谷大学	(2007年1月29日受理)
	健康科学大学	(2007年3月20日受理)
西地区	長浜バイオ大学	(2006年9月11日受理)
	神戸ファッション造形大学	(2006年11月2日受理)
	聖マリア学院大学	(2007年1月23日受理)

* 2007年度加盟校数 (予定)

東地区	252校
西地区	250校
合 計	502校

③ 加盟館名称変更 (2006年4月1日から)

東地区	産能大学図書館
	→ 産業能率大学図書館
	東京慈恵会医科大学医学情報センター
	→ 東京慈恵会医科大学学術情報センター図書館
	武蔵大学図書館研究情報センター
	→ 武蔵大学図書館

嘉悦大学図書館

→ 嘉悦大学情報メディアセンター

北海学園北見大学附属図書館

→ 北海商科大学附属図書館

西地区 大阪明浄大学附属図書館

→ 大阪観光大学図書館

立命館大学総合情報センター（図書館）

→ 立命館大学図書館

大谷女子大学・大谷女子短期大学図書館

→ 大阪大谷大学図書館

名古屋芸術大学附属図書館 師勝キャンパス図書館

→ 名古屋芸術大学附属図書館東キャンパス図書館

筑紫女学園大学・短期大学附属図書館

→ 筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館

(2) 総会・研究大会

① 第67回（2006年度）総会

日 時：2006年9月7日（木）

場 所：関西学院大学 B号館 101号教室

報告事項：

1. 会務報告
2. 協会関連事項報告
3. 役員校、委員会および協会関連団体等委員
4. その他

協議事項

1. 2005年度一般会計・特別会計決算報告（案）について
2. 2006年度事業計画（案）について
3. 2006年度一般会計・特別会計予算（案）について
4. 協会活動活性化策に伴う規程改正等について
5. 新規加盟校について

確認事項

記念講演

「メートル法直前の度量衡統一構想

－関西学院大学図書館特別コレクションから－」

関西学院大学経済学部教授 竹本 洋氏

② 研究大会

日 時：2006年9月8日（金）

場 所：関西学院大学 B号館 101 教室

日 程：

1. 2005 年度海外集合研修報告
2. 2005 年度海外派遣研修報告
3. 講演(1)
「大学ミッションと図書館－これからのサービス・モデル－」
筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授
永 田 治 樹 氏
4. 講演(2)
「大学図書館運営にかかる現況と諸課題について
－図書館要員政策をめぐって－」
早稲田大学図書館総務課長 中 元 誠 氏
5. 講演(3)
「利用教育、大学図書館の生命線」
京都大学附属図書館情報サービス課長
片 山 淳 氏
6. パネルディスカッション
テーマ「今、新たな図書館のミッションを考える」
コーディネーター 関西学院大学図書館長 井上琢智氏
パネリスト 講演(1)講演者 永田治樹氏
講演(2)講演者 中元 誠氏
講演(3)講演者 片山 淳氏

(3) 東西合同役員会

① 第1回東西合同役員会

日 時：2006年9月6日(水)

場 所：関西学院会館 「翼の間」

報告事項(2006年4月～8月)

1. 会務報告
2. 東地区部会会務報告
3. 西地区部会会務報告
4. 委員会報告
 - (1) 研究助成委員会報告
 - (2) 国際図書館協力委員会報告
 - (3) 協会ホームページ委員会報告
5. 協会関連事項報告
6. 2006年度役員校・委員会委員および協会関連団体等委員

7. 2006 年度行事・会議予定

8. その他

協議事項

1. 研究助成のあり方について
2. 国際シンポジウムについて
3. 2005 年度一般会計・特別会計決算報告（案）について
4. 2006 年度事業計画（案）について
5. 2006 年度一般会計・特別会計予算（案）について
6. 協会活動活性化策に伴う規程等の改正について
7. 新規加盟（案）について
8. 次期会長校について
9. 第 68 回（2007 年度）総会・研究大会について

懇談事項

② 第 2 回東西合同役員会

日 時：2007 年 3 月 2 日（水）

場 所：京都ガーデンパレス 「葵」

報告事項（2006 年 9 月～2007 年 2 月）

1. 会務報告
2. 東地区部会会務報告
3. 西地区部会会務報告
4. 委員会報告
 - (1) 協会賞審査委員会報告
 - (2) 研究助成委員会報告
 - (3) 国際図書館協力委員会報告
 - (4) 協会ホームページ委員会報告
5. 協会関連事項報告
6. 2007 年度行事・会議予定について

協議事項

1. 2006 年度一般会計・特別会計決算（案）について
2. 2007 年度事業計画（案）について
3. 2007 年度一般会計・特別会計予算（案）について
4. 2006 年度協会賞について
5. 2006 年度・2007 年度研究助成について
6. 第 68 回（2007 年度）総会・研究大会について
7. 次期委員会委員について
8. その他
 - (1) 協会ホームページ委員会からの提案・確認事項について

懇談事項

1. 2011～2012 年度会長校について

(4) 常任幹事会

① 第1回常任幹事会

日 時：2006 年 4 月 14 日（金）14:00～15:10

場 所：久留米大学附属図書館 御井学舎分館 館長室

報告事項

1. 会務報告

- (1) 協会加盟校について
- (2) 加盟館への書類等の送付について
- (3) 協会会報の発行について

2. 委員会報告

- (1) 研究助成委員会報告
- (2) 国際図書館協力委員会報告
- (3) 協会ホームページ委員会報告

3. 協会関連事項報告

- (1) 国公立大学図書館協力委員会報告
- (2) 日本図書館協会大学

4. その他

- (1) 2006 年度行事・会議予定

協議事項

1. 2006 年度委員会および協会関連団体等委員について
2. 2005 年度一般会計・特別会計決算報告書（案）について
3. 2006 年度事業計画（案）について
4. 2006 年度一般会計予算および特別会計予算（案）について
5. 協会活動活性化策に伴う規程改正等について
6. その他

懇談事項

1. 総会・午餐会の進行について
2. 議長の選出について

② 第2回常任幹事会

日 時：2006 年 12 月 1 日（金）

場 所：龍谷大学 大宮学舎 西翼 2 階大会議室

報告事項：

1. 会務報告
2. 東地区部会会務報告

3. 西地区部会会務報告
4. 委員会報告
5. 協会関連事項報告
6. その他

協議事項

1. 2006 年度一般会計・特別会計収支状況について
2. 2007 年度事業計画について
3. 第 68 回（2007 年度）総会・研究大会について
4. 2007 年度一般会計・特別会計予算（案）について
5. 2006 年度研究助成について
6. 協会ホームページ委員会の構成について
7. 次期委員会委員について
8. その他

(5) 加盟館への書類の送付

本協会加盟館に対して、会長校より以下の資料を送付した。

- ① 4 月 1 日付発送
 - ア. 私立大学図書館協会会費および加盟大学在学学生数調査に関する書類
 - (ア) 在学整数調査について
 - (イ) 会費細則
 - (ウ) 在学学生数調査票
 - (エ) 2006 年度会費請求書
 - (オ) 振込依頼書
 - イ. その他
 - (ア) 2006 年度暫定予算の執行について
 - (イ) 第 67 回総会への議題・承合事項の提出について
 - (ウ) 国際図書館協力基金による私立大学図書館協会加盟図書館 2006 年度第 1 回寄贈資料搬送事業実施について
- ② 4 月 10 日付発送
 - 国立大学法人筑波大学からの連絡
 - 平成 18 年度大学図書館職員長期研修の開催について
- ③ 4 月 28 日付発送
 - 国立情報学研究所からの通知
 - ア. 「目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討ワーキング・グループ中間報告書」について
 - イ. 「NAC S I S - C A Tレコード調整方式検討ワーキング・グループ報告書」について

④ 5月22日付発送

国公立大学図書館協力委員会からの通知

ア. 「大学図書館間協力における資料複製に関する利用許諾契約書」の改訂について

イ. 「大学図書館間協力における資料複製に関する利用許諾契約書」(写し)

ウ. 「大学図書館間協力における資料複製に関する合意書」について

エ. 「大学図書館間協力における資料複製に関する合意書」(写し)

資料: 「大学図書館間協力における資料複製に関するガイドライン」

別表 大学図書館一覧

⑤ 9月11日付発送

ア. 研究助成の募集関係

○ 2006・2007年度 研究助成の募集について(お知らせ)

○ 研究助成応募要領

○ 私立大学図書館協会研究助成申込書(様式A~D)

イ. 国公立大学図書館協力委員会からの通知

○ 文献提供サービスに係る国立国会図書館と大学図書館の今後の連携のあり方について(通知)

[別紙1]

文献提供サービスに係る国立国会図書館と大学図書館の今後の連携のあり方に係る提案について

[別紙2]

文献提供サービスに係る国立国会図書館と大学図書館の今後の連携のあり方について

⑥ 9月26日付発送

国際図書館協力委員会からの通知

ア. 国際図書館協力基金による私立大学図書館協会加盟図書館2006年度第2回寄贈資料搬送事業の実施について

イ. 2006年度海外集合研修の参加者募集について

⑦ 10月2日付発送

ア. 2006年度協会賞受賞候補者の推薦について(依頼)

⑧ 11月7日付発送

ア. 国公立大学図書館協力委員会主催 平成18年度シンポジウムの開催について

(6) 未加盟校への勧誘について

本協会未加盟校に対して、会長校より以下の資料を10月12日付で送付し、加盟についての案内を行った。

- ① 私立大学図書館協会への加盟について（案内）
- ② 私立大学図書館協会について
- ③ 私立大学図書館協会会則
- ④ 私立大学図書館協会組織図
- ⑤ 私立大学図書館協会 加盟図書館名簿
- ⑥ 私立大学図書館協会 東地区部会事業内容
- ⑦ 私立大学図書館協会 西地区部会事業内容
- ⑧ 加盟申込書

(7) 会報の刊行について

- ① 会報 126 号について、従来と同じ内容で 2006 年 9 月 8 日に刊行した。
- ② 会報 127 号は、2007 年 3 月 8 日に刊行した。

2. 委員会報告

(1) 協会賞審査委員会報告

- 日 時：2007 年 3 月 1 日（木）
- 場 所：京都ガーデンパレス 「橘」
- 議 題：
- 1. 2006 年度協会賞の審査について
 - 2. 次年度協会賞審査委員会委員について
 - 3. その他

(2) 研究助成委員会報告

① 第 1 回委員会

- 日 時：2006 年 4 月 13 日（木）14:00～17:00
- 場 所：久留米大学附属図書館 御井学舎分館 3 階 A V ホール
- 議 題：
- 1. 委員長の選出について
 - 2. 2006 年度研究助成の進め方並びに今後の運営について
 - 3. その他

② 第 2 回委員会

- 日 時：2006 年 6 月 23 日（金）14:00～17:40
- 場 所：南山大学図書館 1 階会議室
- 議 題：
- 1. 研究助成規程の改正ポイントの確認について
 - 2. 課題研究の制度と運用方法について
 - (1) フォロー体制について

- (2) 課題研究募集の提示内容
- (3) 日程
- (4) 課題の選定
- (5) 応募要領の設定

3. その他

③ 第3回委員会

日 時：2006年11月30日（木）
場 所：龍谷大学 深草学舎 紫英館2階 第1共同研究室
議 題：

- 1. 2006年度研究助成の審査について
- 2. 「課題研究」について
- 3. 今後の進め方について
- 4. 次年度研究助成委員会委員について
- 5. その他

④ 第4回委員会

日 時：2007年3月1日（木）
場 所：京都ガーデンパレス 「橘」
報告事項

1. 第一次採択の研究助成の執行状況

(1) 2006年度対象

① 機関研究

ア. 市古みどり他2名（慶應義塾大学）

(ア) テーマ：図書館評価 LibQUAL+®の日本における実施展開

(イ) 研究期間：2006年11月～2008年3月

(ウ) 助成額：初年度 30,000円（翻訳料）

② 個人研究

ア. 中林雅士（明治大学）

(ア) テーマ：大学間における図書館システムの統合とその可能性および効果についての考察

(イ) 研究期間：2006年4月～2009年3月

(ウ) 助成額：第1年次 159,600円（リース料）

(2) 2007年度対象

① 課題研究（アウトソーシング：管理・運営）

ア. 伊藤秀弥他1名（立教大学）

(ア) テーマ：実績（量・質）評価可能な業務委託仕様書および数値化を伴う実績評価方法モデル作成の可能性について

(イ) 研究期間：2007年4月～2008年3月

(ウ) 助成額：600,000円（2007年度執行）

協議事項

1. 2006年度第二次研究助成の審査について
2. その他

(3) 国際図書館協力委員会報告

① 委員会

ア. 第1回委員会

日 時：2006年5月12日（金）

場 所：南山大学図書館

審議事項

1) 新委員の紹介

各校の人事異動により交代した委員の紹介ならびに新委員長、関西大学市原憲厚の挨拶があった。

2) 海外集合研修について

2004年度、2005年度の研修受入先であったイリノイ大学モーテンソン・センターから、今年は受け入れできない旨連絡があった。継続審議として各委員が持ち帰り具体的な研修計画案を策定し、次回委員会で成案化することとした。

3) 国際図書館協力シンポジウムについて

講師について Lorcan Dempsey 氏 (OCLC) を第一候補にする。講演のテーマは「10年後の図書館事情」について願います。会場については、輪番制により今年度は東地区が会場となる。基調講演の後のプログラムについては今後検討していくものとする。

報告事項

- 1) 事務局報告] 2006年度第1回寄贈資料搬送事業の進捗状況について
締切は5月末日であるが、現在のところ申請はない。

イ. 第2回委員会

日 時：2006年6月22日（木）

場 所：関西大学図書館

審議事項

1) 2006年度第1回寄贈資料搬送事業について

明治大学から申請があった。寄贈先はラオス国立大学かマダガスカル・アンタナナリボ大学かで調整中である。寄贈先が確定次第見積りをとり、会長校に報告する。

2) 海外集合研修について

研修先として OCLC に 10 月か 11 月に 1 週間程度受入れ可能か紀伊国

屋書店を通じて打診中である。面接は次回委員会開催時に行う。募集人員は5～6名とする。航空賃や宿泊費の高騰により、予算を超過した場合は、会長校と相談する。

3) 国際図書館協力シンポジウムについて

Lorcan Dempsey 氏の年内来日は難しく、2007年4月に予定される香港訪問前後に来日可能か打診中である。改めて講師を人選することは時間的にも難しいため、年度を越えての開催もやむを得ないものとする。2007年度開催となった場合、新旧委員会の共同開催として、会計処理については会長校と相談することとする。

4) 国際図書館協力基金について

事務局と会長校とで依頼文書を早急に作成し、各委員に配布する。

5) その他

(1) 次期委員(2007-2008年度)について

次期委員についてはローテーションにより選出すること、委員長校は東地区から選出することを確認した。次期委員校に対しては会長校と相談のうえ、できるだけ早期に伝達する。

報告事項

- 1). [事務局報告] 海外派遣研修については、高井 響氏(立命館大学)にモーテンソン・センターから受入れ決定とビザ取得に係る書類を送付する旨の連絡があった。なお、研修期間は9月6日～11月3日である。

ウ. 第3回委員会

日 時: 2006年11月17日(金)

場 所: 早稲田大学 中央図書館

議 題:

- 1) 2006年度海外集合研修について
- 2) 2006年度国際図書館協力シンポジウムについて

報告事項:

- 1) 次期委員の推薦について
- 2) 寄贈資料搬送事業について
- 3) 国際図書館協力基金について

エ. 第4回委員会

日 時: 2006年12月8日(金)

場 所: 関西大学東京センター

審議事項:

- 1) 2006年度第2回寄贈資料搬送事業について
- 2) 2007年度海外派遣研修について
- 3) 2006年度国際図書館協力シンポジウムについて

4) その他

(1) 2006年度海外集合研修について

報告事項：

- 1) 2006年度海外派遣研修について
- 2) 国際図書館協力基金について

オ. 第5回委員会

日 時：2007年3月9日（金）

場 所：早稲田大学 中央図書館

審議事項：

1. 2007年度海外派遣研修について
2. 2006年度国際図書館協力シンポジウムについて
3. 2007年度第1回寄贈資料搬送事業について
4. イリノイ大学モーテンソン・センターとの協定更新について
5. その他

報告事項

1. 2006年度海外派遣研修参加者（立命館大学 高井 響氏）の報告について
2. 2006年度第2回寄贈資料搬送事業の進捗状況について
3. 国際図書館協力基金の納入状況について

② 実施事業

ア. 搬送事業

2006年度第1回搬送事業（募集期間 2006年4月1日～5月31日）

寄贈校	寄贈先	個数	冊数	費用
明治大学	ラオス国立大学	9個	173冊	291,700円（税込）

2006年度第2回搬送事業（募集期間：2006年9月26日～11月30日）

寄贈校	寄贈先	個数	冊数	費用
青山学院	釜山外国語大学	未定	139冊	185,800円（税込）

イ. 海外集合研修

実施日程：2007年3月11日（日）～3月17日（土）

研修機関：OCLC（Ohio LINK、オハイオ州立大学
Library of Congress 等）

派遣者：石川敬史氏（工学院大学）

清水道太氏（国際基督教大学）

二塚 恵里 氏 (国立音楽大学)

森戸 智枝 氏 (広島修道大学)

ウ. 海外派遣研修

派遣先: イリノイ州立大学モーテンソンセンター

派遣期間: 2006年9月6日(水)～11月3日(金)

派遣者: 高井 響 氏 (立命館大学BK C 図書館サービス課)

(4) ホームページ委員会報告

① 委員会報告

ア. 第1回委員会

日時: 2006年4月13日(木) 14:00～17:00

場所: 久留米大学附属図書館 御井学舎分館 AVホール

報告事項:

(1) 私立大学図書館協会並びに各地区部会・各地区協議会 HP の進行状況報告

(2) 東西合同役員会報告

協議事項:

(1) 今年度の業務計画について

(2) ホームページの見直し・構成について

(3) その他

イ. 第2回委員会

日時: 2006年6月30日(金)

場所: 明治大学 駿河台校舎 中央図書館B2F)

報告事項:

(1). 私立大学図書館協会並びに各地区部会・各地区協議会 HP の進行状況報告

○ 2006年度第1回研究部運営委員会・分科会代表者合同会議報告

○ 西地区部会からの報告

(2). 東地区部会総会報告

(3). 西地区部会総会報告

協議事項:

(1) ホームページトップ画面について

(2) 私大図協サーバについて

(3) 加盟館名簿について

(4) 資料組織研究分科会について

(5) 次年度HP委員選出について

(6) 次回開催日について

ウ. 第3回委員会

日 時：2006年10月25日（水）

場 所：広島経済大学図書館

報告事項：

- 1) 協会全体、東地区、東地区研究部、西地区のページ構成、更新状況について
- 2) 西地区部会第2回役員会報告について
- 3) 次年度予算申請締切日について

議 題：

- 1) R S S運用について
- 2) 私立大学図書館協会ホームページバックアップについて
- 3) ホームページリニューアルについて
- 4) 次期ホームページ委員について
- 5) 私立大学図書館協会ホームページ サイトポリシーについて
- 6) ファイルサーバ運用について
- 7) 館名名簿について
- 8) その他

エ. 第4回委員会

日 時：2007年2月28日（水）

場 所：南山大学図書館

報告事項：

- 1) 協会全体、東地区、東地区研究部、西地区のページの構成、更新状況について
- 2) 2006年度第2回常任幹事会報告について

議 題：

- 1) 私立大学図書館協会ホームページ サイトポリシーについて
- 2) 次期ホームページ委員について
- 3) 来年度の業務計画について

② WWW 情報資源提供サービス利用状況報告

ア. 2006年8月1日現在

ア) 有料レンタルサーバの契約

(ア) 契約期間 : 年間契約

(イ) ウィルス駆除サービス : 50 I D

(ウ) 契約ディスク容量 : 500MB

イ) 情報資源利用状況

(ア) ホームページ設置スペースサービス : 31 団体

- (イ) 代表者宛転送メールサービス : 24 団体
- (ウ) 構成員用メーリングリストサービス : 31 団体
- ※ ただし、資料組織研究分科会含む。

イ. 2007年2月8日現在

- ア) 有料レンタルサーバの契約
 - (ア) 契約期間 : 年間契約
 - (イ) ウィルス駆除サービス : 50 I D
 - (ウ) 契約ディスク容量 : 1 G B (100MB)
使用量 : 476.78MB (48%)
残り空き容量 : 523.22MB
- イ) 情報資源利用状況
 - (ア) ホームページ設置スペースサービス : 28 団体
 - (イ) 代表者宛転送サービス : 25 団体
 - (ウ) 構成員用メーリングリストサービス : 32 団体

3. 協会関連事項報告

(1) 国公立大学図書館協力委員会報告

① 第60回 国公立大学図書館協力委員会

日時 : 2006年7月21日 (金) 15:30~17:00

場所 : 京都大学附属図書館 (4 F)

議事 :

報告事項

1. 委員長館会務報告

(1) 臨時常任幹事会報告 平成18年3月8日 (水)

(2) 第2回常任幹事会報告 平成18年7月21日 (金)

(3) 運営分担金の拠出について

(4) ICOLCポズナニ大会、フィラデルフィア大会参加報告について

2. 日本図書館協会大学図書館部会について

3. 国立国会図書館と大学図書館との連絡会について

4. 「大学図書館協力ニュース」編集委員会報告

5. 「大学図書館研究」編集委員会報告

6. 大学図書館著作権検討委員会報告

7. シンポジウム企画・運営委員会報告

8. G I Fプロジェクト関連報告

9. J C O L C 関連報告

(1) 国立大学図書館協会 (E J タスクフォース関連)

(2) 公私立大学図書館コンソーシアム (P U L C 関連)

10. その他

(1) 国立大学図書館協会関連

(2) 公立大学協会図書館協議会関連

(3) 私立大学図書館協会関連

協議事項

1. 次期委員長の選出について
 2. シンポジウムの開催について
 3. ICOLC第8回ヨーロッパ大会（ローマ）への派遣について
 4. 国公立大学図書館協力委員会運営要項の字句修正について
 5. 国立国会図書館と大学図書館との連絡会からのNDL-IILLに係る今後の文献複写サービスの連携に関する提案について
 6. 国立大学図書館協会からの依頼事項について
 7. その他
- (1) 国公立大学図書館協力委員会の英文名称について

② 第61回国公立大学図書館協力委員会

日 時：2006年11月7日（火）
場 所：東京大学総合図書館大会議室
議 事：

報告事項

1. 委員長館会務報告
2. 「大学図書館協力ニュース」編集委員会報告
3. 「大学図書館研究」編集委員会報告
4. 大学図書館著作権検討委員会報告
5. シンポジウム企画・運営委員会報告
6. GIFプロジェクト関連報告
7. JCOLC 関連報告
8. その他

協議事項

1. 平成17年度決算報告書（案）ならびに監査報告について
2. 平成18年度予算（案）について
3. 監事館の選出について
4. その他

② 平成18年度 国際シンポジウム

日 時：平成18年12月7日（金）
場 所：慶應義塾大学 三田キャンパス 北館ホール
テーマ：デジタルコンテンツの創造と発見

日 程：

開会挨拶 国公立大学図書館協力委員会委員長

横浜市立大学学術情報センター長 野々山 隆 幸 氏

講 演 「Googleの目指すもの（仮題）」

グーグル株式会社社長 村 上 憲 郎 氏

講 演 「The Evolution of Secondary Publishers into E-Meta Data Publishers」

(二次情報出版社からEメタデータ出版社への進化)

Cambridge Information Group 副会長 Jim McGinty 氏

休憩

講演 「大学図書館における情報探索環境提供の今日的課題
事例研究と考察」

三重大学教授 佐藤義則氏

質疑応答 司会：千葉大学附属図書館長 土屋俊氏

閉会

③ 平成18年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会報告

日時：2006年11月7日(火)

場所：国立国会図書館本館 3階 総務課第1会議室

内容：

1. 国立国会図書館報告
2. 大学図書館報告
3. 懇談

(2) 日本図書館協会関連

① 第92回 全国図書館大会 岡山大会

日時：2006年10月26日(木)～27日(金)

場所：岡山シンフォニーホール他

テーマ：晴の国岡山から未来へ向けて

－ひろげよう図書館の可能性－

日程：

[第1日目]

開会式・表彰式・全体会

基調報告：「物語の日々」 あさのあつこ氏(児童文学作家)

交流会

[第2日目]

分科会(11分科会)

ボランティアの集い

② 理事会

ア. 第1回理事会

日時：2006年5月24日(水) 12:30～16:30

場所：日本図書館協会 2階研修室

協議事項：

1号議案：2005年度会勢報告・案について

2号議案：2005年度決算報告・案について

3号議案：2005年度監査報告について

4号議案：定款の改正、および役員報酬規程の制定について

5号議案：会長の推戴について

その他

〈報告〉

1. 第92回全国図書館大会について

2. その他

イ. 第2回理事会

日 時：2006年3月2日（金）

場 所：日本図書館協会 2階研修室

議 事：

1. 2007年度事業計画案について

2. 2007年度予算案について

3. 全国図書館大会東京大会について

4. その他

② 評議員会

ア. 第1回評議員会

日 時：2006年5月25日（木）12:30～16:30

場 所：日本図書館協会 2階研修室

協議事項：

1号議案 2005年度会勢報告・案について

2号議案 2005年度決算報告・案について

3号議案 2005年度監査報告について

4号議案 定款の改正、および役員報酬規程の制定について

5号議案 会長の推戴について

その他

報 告

1. 第92回全国図書館大会について

2. その他

イ. 第2回評議員会

日 時：2007年3月16日（金）

場 所：日本図書館協会 2階研修室

議 事：

1. 2007年度事業計画案について

2. 2007年度予算案について

3. 全国図書館大会東京大会について

4. その他

③ 第30期第2年次（2006年度）総会

日 時：2006年5月26日（金）13:00～16:00

場 所：日本図書館協会

協議事項：

- 1号議案 2005年度会勢報告・案について
- 2号議案 2005年度決算報告・案について
- 3号議案 2005年度監査報告について
- 4号議案 定款の改正、および役員報酬規程の制定について
- 5号議案 会長の推戴について

オ. その他

報 告

1. 第92回全国図書館大会について
2. その他

(3) 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会

① 第1回

日 時：平成18年9月8日（金）

場 所：学術総合センター

議 事：

1. 平成18年度以降の推進体制について
2. 国際学術情報流通基盤整備事業第2期基本方針について
3. 平成18年度国際学術情報流通基盤整備事業実施計画について

② 第2回

日 時：平成19年1月30日（火）

場 所：学術総合センター

議 事：

1. 前回議事要旨案確認
2. 今年度の事業活動について
 - (1) パートナー誌支援
 - (2) 広報・啓発活動
 - ・連続セミナー
 - ・国際シンポジウム
 - ・パンフレットの作成
 - ・その他
 - (3) 国際連携
 - (4) 大学図書館からみた事業評価
3. 来年度のパートナー誌支援について

- 4. 来年度の連続セミナーについて
- 5. その他

(4) その他(後援事項)

① 第9回図書館総合展フォーラムの後援について

日 時：2006年11月20日(月)
場 所：パシフィコ横浜 第2会場
主 催：国立情報学研究所
後 援：私立大学図書館協会、国立大学図書館協会
 公立大学協会図書館協議会
演 目：「TRANSFER－出版社間のジャーナル移行に伴う問題点と
 その解決に向けて－
講 演 者： Chair of TRANSFER, UKSG/Blackwell Nancy Buckley 氏

② 国際シンポジウムの後援について

日 時：2006年12月18日(月)～19日(火)
場 所：都市センターホール
 東京都千代田区平河町2-4-1
主 催：国立情報学研究所
後 援：文部科学省、日本学術会議、国立国会図書館、科学技術振興機構
 私立大学図書館協会、国立大学図書館協会
 公立大学協会図書館協議会

メインテーマ：

「デジタル巨人の肩の上に立つ」

－機関リポジトリ、e-サイエンスおよび学術コミュニケーションの将来に
関するシンポジウム－

プログラム：

(第1日)

開会式、主催者挨拶

基調講演： Director, California Digital Library, USA
Daniel Greenstein 氏

セッション1：機関リポジトリ－進化する研究インフラ－

(第2日)

セッション2：学術出版－評価・アクセス・発信

セッション3：高等教育のためのデジタル資源の課題

閉会式

3. 2007年度私立大学図書館協会委員会および協会関連団体等委員

役員校

会長校	中央大学	
東地区部会		
部会長校	帝京大学	
理事校	東京経済大学	(研究部担当)
"	共立女子大学	(分科会更新担当・会報担当)
"	國學院大學	(分科会月例担当)
"	北星学園大学	(東北・北海道地区担当)
監事校	駒澤大学	(前東地区部会長校)
西地区部会		
部会長校	大阪学院大学	(阪神地区協議会)
理事校	愛知淑徳大学	(東海地区協議会)
"	京都学園大学	(京都地区協議会)
"	大手前大学	(阪神地区協議会・会則第13条第2項)
"	四国学院大学	(中国・四国地区協議会)
"	福岡大学	(九州地区協議会)
監事校	龍谷大学	(前会長校)

委員会

ア. 協会賞審査委員会

金子昌嗣	(委員長)	早稲田大学
石黒敦子		慶應義塾大学
上田裕保		同志社大学
木村英照		駒澤大学
栗山義久		南山大学
三瓶良男		文教大学
東條文規		四国学院大学
中村順治		関西学院大学

イ. 研究助成委員会

熱田智之	(委員長)	青山学院大学
入矢玲子		中央大学
落合万里子		同志社大学
甲野浩史		龍谷大学
鈴木大然		駒澤大学
高木秀人		福岡大学
中嶋康		帝京大学
中村保夫		大阪学院大学

ウ. 国際図書館協力委員会

丸本操	(委員長)	東京経済大学
落合万里子		同志社大学

飼 沼 敏 雄	名城大学
風 間 茂 彦	慶應義塾大学
新 田 晶 平	大阪学院大学
三 浦 治	帝京大学

エ. ホームページ委員会

川 越 智 之 (委員長)	駒沢大学
荒 木 浩 一 郎	京都文教大学
久 世 泰 子	東京経済大学
竹 村 宏	大手前大学
長 坂 功	愛知大学
中 林 雅 士	明治大学
野 口 秀 美	福岡大学
藤 尾 豊	四国学院大学
辺 見 純 子	帝京大学
矢 田 部 伸 治	大阪学院大学
渡 来 達 也	中央大学

③ 協会関連団体

ア. 国公立大学図書館協力委員会

(委員長館：横浜市立大学 (2006年8月1日～2007年7月31日)

早稲田大学 (2007年8月1日～2008年7月31日)

ア) 委員館 (2007年4月1日～2009年3月31日)

委員館 (常任)	慶應義塾大学
委員館 (常任)	早稲田大学
委員館	中央大学
委員館	帝京大学
委員館	大阪学院大学
委員館	龍谷大学

イ) 『大学図書館協力ニュース』編集委員会

委員 (2007年4月1日～2009年3月31日)

工 藤 邦 弘	中央大学
山 下 智 美	帝京大学
中 村 保 夫	大阪学院大学

ウ) 『大学図書館研究』編集委員会

委員

上 田 裕 保	同志社大学
市河原 雅 子	関西学院大学
野々村 洋	法政大学
柴 尾 晋	明治大学
多 田 智 子	早稲田大学
関 秀 行	慶應義塾大学

エ) 大学図書館著作権検討委員会

委員

松 本 和 子 (主査)	慶應義塾大学三田メディアセンター
中 元 誠	早稲田大学図書館

オ) 大学図書館著作権検討委員会ワーキング・グループ

今 村 昭 一	早稲田大学
---------	-------

笹 渕 洋 子	早稲田大学
遠 藤 久美子	慶應義塾大学
吉 沢 亜希子	慶應義塾大学

カ) シンポジウム企画委員会

委員

中 元 誠	早稲田大学図書館
市 古 みどり	慶應義塾大学日吉メディアセンター

イ. 日本図書館協会

ア) 施設会員理事

杉 山 伸 也	慶應義塾大学メディアセンター所長
---------	------------------

イ) 施設会員評議員

古 城 利 明	中央大学図書館長
岡 田 泰 男	帝京大学メディアライブラリーセンター館長
金 川 徹	大阪学院大学図書館長
木 田 知 生	龍谷大学図書館長

ウ) 大学図書館部会

施設会員委員

中 元 誠	早稲田大学
村 上 篤太郎	慶應義塾大学

II. 協議事項

1. 2006年度東地区部会決算報告及び監査結果

2006年度 私立大学図書館協会東地区部会

決算報告書

(2006年4月1日 ~ 2007年3月31日)

収入の部 (単位:円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘要
協会交付金	3,159,000	3,237,000	△ 78,000	¥13,000×(243+6)校
雑収入	10	38,365	△ 38,355	預金利息 ¥725 活動費返金 ¥37,640
小計	3,159,010	3,275,365	△ 116,355	
前年度繰越金	1,324,360	1,324,360	0	
合計	4,483,370	4,599,725	△ 116,355	

支出の部 (単位:円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘要
役員会費	200,000	175,270	24,730	
部会総会費	520,000	413,282	106,718	館長会・研究講演会費用含む
印刷費	100,000	16,275	83,725	
通信費	100,000	98,805	1,195	
運営事務費	40,000	6,644	33,356	
研究部交付金	2,211,300	2,265,900	△ 54,600	¥13,000×0.7×(243+6)校
予備費	1,312,070	0	1,312,070	
合計	4,483,370	2,976,176	1,507,194	
次年度繰越金	0	1,623,549	△ 1,623,549	
総計	4,483,370	4,599,725	△ 116,355	

上記のとおり報告いたします。

2007年4月5日

私立大学図書館協会
東地区部会長
駒澤大学図書館



関係帳簿並びに証憑書類を精査した結果、正確なることを認めます。

2007年4月5日

私立大学図書館協会
東地区部監事
早稲田大学図書館



2. 2006年度東地区部会研究部決算報告及び監査結果

2006年度私立大学図書館協会東地区部会研究部

決算報告書

(2006年4月1日～2007年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差異 (A-B)	備 考
部会交付金	2,211,300	2,265,900	△ 54,600	①13,000円 × 0.7 × 249 校
研修会参加費収入	480,000	444,000	36,000	参加費：③3,000円 3,000 × 148 名
研究会参加費	300,000	102,000	198,000	意見交換会参加費：③3,000円 3,000 × 34 名
雑 収 入	1,000	87	913	預金利息
小 計	2,992,300	2,811,987	180,313	
前年度繰越金	1,974,875	1,974,875	0	
合 計	4,967,175	4,786,862	180,313	

支出の部

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差異 (A-B)	備 考
研究会開催費	600,000	312,256	287,744	研究会(交流会)11月10日開催 (於法政大学)
研修会開催費	1,500,000	670,504	829,496	9月26日～27日開催(於慶應義塾大学)
運営委員会費	100,000	96,322	3,678	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	79,131	80,869	年2回開催(第1回5月19日於駒澤大学・ 第2回11月10日於法政大学)
分科会助成金	600,000	558,000	42,000	基本助成：420,000 円 (30,000 × 14 分科会) 割増助成：138,000 円 会員96名(上限60,000円/分科会)
分科会特別助成金	0	0	0	
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	100,000	0	100,000	
印 刷 費	600,000	263,535	336,465	研究部報告書：500部
通 信 費	220,000	97,335	122,665	
運 営 事 務 費	50,000	33,788	16,212	
予 備 費	937,175	0	937,175	
合 計	4,967,175	2,210,871	2,756,304	
次年度繰越金	0	2,575,991	△ 2,575,991	
総 計	4,967,175	4,786,862	180,313	

2006年度私立大学図書館協会東地区部会研究部決算報告は、以上の通りです。

2007年3月31日

東地区部会研究部担当理事校

国士館大学附属図書館

監 査 報 告 書



2006年度に係る決算報告書及び附属書類について、その証憑書類及び帳簿を監査いたしました結果、当該決算報告書は適正に表示されていると認めます。

2007年4月5日

東地区部会監事校

早稲田大学図書館



3. 2007年度東地区部会事業計画(案)

(2007年4月1日～2008年3月31日)

1. 事業計画

- (1) 東地区における私立大学図書館協会の活動推進
協会ホームページ運営における支援協力の活性化、研究活動助成など各種取り組みを成功させるための活動。
- (2) 研究部活動の充実
- (3) 総会及び館長会の開催
- (4) 相互協力活動の推進
各種図書館間の情報交換及び協力活動の推進。
- (5) 部会運営の効率化
図書館職員数減少など参加館の実情に合わせた部会運営の見直し。

2. 行事・会議予定

○東地区関係

東地区部会総会	2007年 6月22日 (金)	国際基督教大学
館長会・研究講演会	2007年 6月22日 (金)	国際基督教大学
役員会		
第1回役員会	2007年 4月20日 (金)	帝京大学
第1回役員会事務連絡会	2007年 6月22日 (金)	国際基督教大学
第2回役員会事務連絡会	2007年 9月 5日 (水)	立教大学
第2回役員会	2008年 1月25日 (金)	未定

○協会関係

東西合同役員会		
第1回	2007年 9月 5日 (水)	立教大学
第2回	2008年 3月 7日 (金)	アルカディア市ヶ谷
総会	2007年 9月 6日 (木)	立教大学
研究会	2007年 9月 7日 (金)	立教大学

4. 2007年度 私立大学図書館協会東地区部会予算(案)

(2007年4月1日～2008年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科目	07年度予算(A)	06年度予算(B)	差異(A-B)	備考
協会交付金	3,237,000	3,159,000	78,000	¥13,000×249校
雑収入	1,000	10	990	
小計	3,238,000	3,159,010	78,990	
前年度繰越金	1,623,549	1,324,360	299,189	
合計	4,861,549	4,483,370	378,179	

支出の部

(単位:円)

科目	07年度予算(A)	06年度予算(B)	差異(A-B)	備考
役員会費	200,000	200,000	0	
部会総会費	561,000	520,000	41,000	
印刷費	100,000	100,000	0	
通信費	100,000	100,000	0	
運営事務費	40,000	40,000	0	
研究部交付金	2,265,900	2,211,300	54,600	¥13,000×0.7×249校
予備費	1,594,649	1,312,070	282,579	
合計	4,861,549	4,483,370	378,179	

5. 2007年度東地区部会研究部活動計画(案)

(2007年4月1日～2008年3月31日)

1. 研究部活動方針

- 1) 研究活動
- 2) 研修活動
- 3) 研究部ホームページの安定的運用

2. 活動計画

1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議。
年8回程度開催。

2) 運営委員・研究分科会代表者合同会議

研究分科会活動計画・運営その他について協議。
2007年5月、11月の年2回開催。

3) 研究会

「研究分科会報告大会」(研究分科会活動成果発表)の開催。
2007年12月開催予定。会場未定。

4) 研修委員会

研修会開催(年2回)のため、年10回程度開催予定。

5) 研修会

第1回 2007年6月28～29日 於：早稲田大学
第2回 2007年11月29～30日 於：東京理科大学

6) 研究分科会

14研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施する。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| (1) 分類研究分科会 | (8) 西洋古版本研究分科会 |
| (2) 逐次刊行物研究分科会 | (9) 企画広報研究分科会 |
| (3) パブリック・サービス研究分科会 | (10) 和漢古典籍研究分科会 |
| (4) 図書館運営戦略研究分科会 | (11) 北海道地区研究分科会 |
| (5) レファレンス研究分科会 | (12) メタデータ研究分科会 |
| (6) 理工学研究分科会 | (13) 情報リテラシー教育研究分科会 |
| (7) 相互協力研究分科会 | (14) Lーラーニング学習支援研究分科会 |

以 上

6. 2007年度私立大学図書館協会東地区部会研究部 予 算 (案)

(2007年4月1日～2008年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	備 考
部会交付金	2,265,900	2,211,300	54,600	@13,000円 × 0.7 × 249 校
研究会参加費収入	480,000	480,000	0	参加費：@3,000円 3,000 × 80 名 × 2 回
研究会参加費	0	300,000	△ 300,000	2007年度は研究分科会報告大会のため未計上
雑 収 入	1,000	1,000	0	
小 計	2,746,900	2,992,300	△ 245,400	
前年度繰越金	2,575,991	1,974,875	601,116	
合 計	5,322,891	4,967,175	355,716	

支出の部

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	備 考
研究会開催費	600,000	600,000	0	研究分科会報告大会開催
研修会開催費	1,300,000	1,500,000	△ 200,000	2007年度は2回開催
運営委員会費	100,000	100,000	0	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	160,000	0	年2回開催 (5・11月)
分科会助成金	920,000	600,000	320,000	基本助成： 420,000 円 (30,000 × 14 分科会) 割増助成正会員 500,000 円 (5,000 × 100 名)
特別助成金	500,000	0	500,000	
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	100,000	100,000	0	研究部活動 (運営委員・研修委員を含む)
印 刷 費	600,000	600,000	0	研究部報告書：500部
通 信 費	250,000	220,000	30,000	隔年に行う研究分科会更新費用を増額。
運営事務費	100,000	50,000	50,000	研究部担当理事校交代初年度のため増額。
予 備 費	592,891	937,175	△ 344,284	
合 計	5,322,891	4,967,175	355,716	

私立大学図書館協会 2007 年度東地区部会
館長会次第

日 時： 2007 年 6 月 22 日（金） 12:10～13:10

会 場： 国際基督教大学 本部棟 2 階 206 会議室

懇談テーマ： インターネット時代の図書館と図書館員の役割

司 会： 岡田 泰男 帝京大学メディアライブラリーセンター館長

私立大学図書館協会 2007 年度東地区部会

「研究講演会」次第

日 時：2007 年 6 月 22 日（金） 13：45～16：45

会 場：国際基督教大学 ディッフェンドルファー記念館 東棟 1F オーディトリウム

(受付開始 13：00)

1. 開会の辞 (13：45～)

司会者 (研究部運営委員) 早稲田大学図書館 加藤 早苗

2. 挨拶

研究部担当理事校

東京経済大学図書館長

石井 寛治

3. テーマ

(1) 講演 「サブジェクト・ライブラリアンと大学図書館」 (14：00～15：00)

京都大学医学図書館

呑海 沙織氏

質疑応答

(15：00～15：15)

<休憩>

(15：15～15：30)

(2) 講演 「司書のキャリア開発から考えるデジタル・ライブラリアンの育成」

(15：30～16：30)

慶応義塾大学文学部 教授

糸賀 雅児氏

質疑応答

(16：30～16：45)

4. 閉会

<講師のプロフィール>

呑海 沙織 (どんかい さおり)

現職：

京都大学医学図書館 専門職員 (図書 (整理) 担当)

最終学歴：

大阪市立大学大学院創造都市研究科 創造都市専攻博士 (後期) 課程修了

専門分野：

主として英国の学術情報政策, 知識情報基盤

情報プロフェッショナル制度

主な業績：

- 1) 呑海沙織「図書館情報学分野の専門能力開発におけるポートフォリオ評価：英国の図書館情報学教育及び CILIP の資格認定制度における試み」情報の科学と技術, 57(1), 2007.1, pp.34-45
- 2) 呑海沙織「学術情報基盤から知識情報基盤へ:JISC(Joint Information Systems Committee)の変遷」図書館界, 58(3), pp. 176- 185, 2006.9
- 3) 呑海沙織「英国における学術情報戦略:フォレット報告と JISC」現代の図書館, 43(3), 2005.9

現在の関心事：

- ・英国の知識情報基盤と情報プロフェッション制度の関係
- ・主として 1980 年代以降の英国の大学及び大学図書館の変遷
- ・学術情報流通の変化

職歴：

京都大学工学部電気系図書室

京都大学附属図書館情報管理課受入掛

京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館 参考調査掛長

奈良女子大学附属図書館 情報サービス係長

その他：

日本図書館研究会理事, 編集委員

国立国会図書館情報学関係情報誌編集企画委員

大学図書館問題研究会京都支部長

サブジェクト・ライブラリアンと大学図書館

呑海沙織（京都大学医学図書館）

donkai@wc4.so-net.ne.jp

1. はじめに

自己紹介

サブジェクト・ライブラリアンに興味を持つきっかけとなったできごと

2. 素朴な疑問

疑問1：今なぜ、サブジェクト・ライブラリアンなのか？

疑問2：日本ではなぜ、サブジェクト・ライブラリアン制度は根付いていないのか？

疑問3：大学にサブジェクト・ライブラリアンは必要か？

3. サブジェクト・ライブラリアンとは何か

3.1. サブジェクト・ライブラリアンにまつわる語彙の問題

1) LISA (Library and Information Science Abstracts) の索引語

subject specialists, subject specialization

2) 同義語・類義語

subject specialists, liaison librarians, link librarians, academic librarians, information librarians

3.2. サブジェクト・ライブラリアンの定義

「特定の主題分野において、利用者の資料・情報へのアクセスを提供し、利用者とその利用者が持つ主題分野を接点として関わりを持つ図書館員」

- ・大学によって異なるサブジェクト・ライブラリアンの役割
- ・サブジェクト・ライブラリアンの役割の変化

3.3. 米国モデルと英国モデル

a. 米国モデル

主題の専門家という側面が強い。ダブルマスター

b. 英国モデル

‘subject librarian’ の ‘subject’ は、専門的知識そのものというよりも、組織の中の主題によるグルーピングという色彩が濃い¹。

4. サブジェクト・ライブラリアンの役割の変化

4.1. 変化の背景

- 1) 情報通信技術の発達
- 2) メディアの多様化
- 3) 教員中心から学生中心へ (From teacher-centred to student-centred)
- 4) エンドユーザ・カルチャー (end-user culture)
- 5) 資源ベース学習 (Resource Based Learning: RBL)
リャンら (S. Ryan, et al), 英国デモンテフォート大学 (De Montfort University)
「集合教育の場で学生主体の学習を促進するために、特に準備された教育資源と双方向コミュニケーションの環境とそれらを支える技術との統合されたもの」²

4.2. フォレット報告

『高等教育合同財政審議会図書館検討委員会報告書(Joint Funding Council's Libraries Review Group: Review)』³, 通称『フォレット報告』

- ・ 学生数の急激な増加に伴う図書館スペースや資料の不足, 資料の高騰による予算の不足と資料の欠乏, 情報通信技術の目覚ましい発展という高等教育機関における図書館や学術情報がおかれる状況を明らかにし, それぞれに対して勧告を行った。
- ・ 1967年7月の『図書館委員会報告書(Report of the Committee on Libraries)』, 通称『パリー報告(Parry Report)』⁴以来はじめての, 英国高等教育における図書館等に関する全般的な報告書といわれる。
- ・ 1992年, HEFCs⁵の合同出資による高等教育合同財政審議会(Joint Funding Council)に, 図書館検討委員会(Libraries Review Group)が設置
- ・ ウォーリック大学副学長ブライアン・フォレット卿を議長とする図書館検討委員会の当初の目的は, 学生の増加に伴う図書館スペースの狭隘化を検討すること
→ 結果的に, 「大学図書館の発達にとって最も重要な原動力」⁶に
- ・ 『学術図書館における人的資源管理に関する報告書 (“A Report on Human Resource Management in Academic Libraries, for the Joint Funding Councils' Libraries Review Group”)』⁷ 通称『フィールデン報告』

4.3. フォレット報告以前のサブジェクト・ライブラリアン

コレクション構築, 目録・分類, 専門的レファレンス・サービス

4.4. フォレット報告後のサブジェクト・ライブラリアン

学習支援, 情報リテラシー教育, 「教える」スキル

5. ケーススタディ：ボーンマス大学（University of Bournemouth）

5.1. ボーンマス大学概略

- 職業教育重視の新大学（new universities）⁸のひとつ
- 設置学部等
 - The Business School
 - School of Conservation Sciences
 - Design, Engineering and Computing
 - Institute of Health and Community Studies
 - Bournemouth Law School
 - The Media School
 - The School of Services Management
- 学生数
15,000 人（内大学院生：1,500 人）

5.2. ボーンマス大学のサブジェクト・ライブラリアン

- 1) Conservation Sciences
サブジェクト・ライブラリアン 1 名，サブジェクト・サポート・ライブラリアン 1 名
- 2) Design, Engineering and Computing
サブジェクト・ライブラリアン 1 名，サブジェクト・サポート・ライブラリアン 1 名
- 3) Institute of Business and Law
サブジェクト・ライブラリアン 1 名，サブジェクト・サポート・ライブラリアン 2 名
- 4) Institute of Health and Community Studies
サブジェクト・ライブラリアン 1 名，サブジェクト・サポート・ライブラリアン 2 名
- 5) Bournemouth Media School
サブジェクト・ライブラリアン 1 名，サブジェクト・サポート・ライブラリアン 2 名
- 6) Services Management
サブジェクト・ライブラリアン 1 名，サブジェクト・サポート・ライブラリアン 2 名

5.3. サブジェクト・ライブラリアンとサブジェクト・サポート・ライブラリアン

- A. サブジェクト・ライブラリアン
企画・戦略，学部・図書館間の調整・連携，サブジェクト・チームのコーディネーター・管理，情報リテラシー・プログラムの立案
- B. サブジェクト・サポート・ライブラリアン
日常的な学習支援，研究支援

6. 素朴な疑問への応えに関する一考察

疑問1：今なぜ、サブジェクト・ライブラリアンなのか？

疑問2：日本ではなぜ、サブジェクト・ライブラリアン制度は根付いていないのか？

疑問3：大学にサブジェクト・ライブラリアンは必要か？

サブジェクト・ライブラリアンに関する文献リストなど
<http://www009.upp.so-net.ne.jp/sat/sl.html>

参考文献：

- 1) Biddiscombe, Richard. Learning support professionals: the changing role of subject specialists in UK academic libraries. Program: electronic library and information systems. 36(4), 2002, pp.228-235
- 2) Gaston, Richard. The changing role of the Subject Librarian, with a particular focus on UK developments, examined through a review of the literature. The New Review of Academic Librarianship, 2001, pp.19-36
- 3) Hay, F.J. The Subject specialist in the academic library: a review article. The journal of academic librarianship, 16(1), 1990, pp.11-17
- 4) Humphreys, K. The subject specialist in national and university libraries. Libri. 17, 1967, pp.29-41
- 5) Martin, J. Subject specialization in British university libraries: a second survey. Journal of Librarianship and Information Science, 28(3), 1996, pp.159-169
- 6) Pinfield, S. The changing role of subject librarians in academic libraries. Journal of Librarianship and Information Science. 33(1), 2001, pp.32-38
- 7) Woodhead, P., Martin, J. Subject specialization in British university libraries: a survey. Journal of Librarianship. 14(2), 1982, pp.93-108

¹ Gaston, Richard. The changing role of the Subject Librarian, with a particular focus on UK developments, examined through a review of the literature. The New Review of Academic Librarianship, 2001, pp.19-36

² 神谷武志, 宮崎和光, 森利枝 「IT を利用した高等教育の展開：教室外講義, 通信教育を中心に」 大学評価・学位研究, 2, 2005.3 Available from < http://www.niad.ac.jp/english/facurity/no02_6.pdf>. [accessed: 2007-05-08]

³ Higher Education Funding Council for England ... [et al.]. Joint Funding Councils' Libraries Review Group: report. 1993.

⁴ Committee on Libraries. University Grants Committee. Report of the Committee on Libraries. University Grants Committee, HMSO, 1967

⁵ イングランド高等教育財政審議会 (Higher Education Funding Council for England: HEFCE), ウェールズ高等教育財政審議会 (Higher Education Funding Council for Wales: HEFCW), スコットランド高等教育財政審議会 (Scottish Higher Education Funding Council: SHEFC)

⁶ ガイ・デインズ講演・高木和子訳 「英国の図書館：歴史的転換期となりうるか」 現代の図書館, 37(1), 1999, pp.40-48

⁷ John Fielden Consultancy. Supporting expansion. a report on human resource management in academic libraries, for the Joint Funding Councils' Libraries Review Group. Bristol. HEFCE. 1993

⁸ 1992年の継続・高等教育法以降に大学としての法人格を持つようになった大学

<講師のプロフィール>

糸賀雅児（いとが まさる）

現職：

慶應義塾大学文学部教授

経歴：

東京大学大学院教育学研究科を修了後、慶應義塾大学文学部助手、助教授を経て1997年より現職。87年、88年国際協力事業団短期専門家としてタイに派遣。89～91年にケンタッキー大学にて訪問研究員。専門は図書館経営論、図書館政策論。

主要著作・論文：

「Seeking understanding beneath the unspecifiable」Libri, vol.42, 1992「話せて書ける図書館司書を！」図書館雑誌 Vol.91, 1997「図書館パフォーマンス指標の背景と特徴」現代の図書館 Vol.38, 2000「図書館による町村ルネサンス—Lプラン 21」（編著）日本図書館協会、2001「図書館の経営評価」（共著）勉誠出版, 2003, 「公共施設としての図書館の評価」公共建築 Vol.46, 2004 など。

委員等：

文部省大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員

文部省地域電子図書館構想検討協力者会議主査

文部科学省 第2～4期中央教育審議会生涯学習分科会臨時委員（現職）

文部科学省「これからの図書館のあり方検討協力者会議」副主査（現職）

東京都立図書館協議会副議長（現職）

デジタル・ライブラリアン研究会代表（現職）

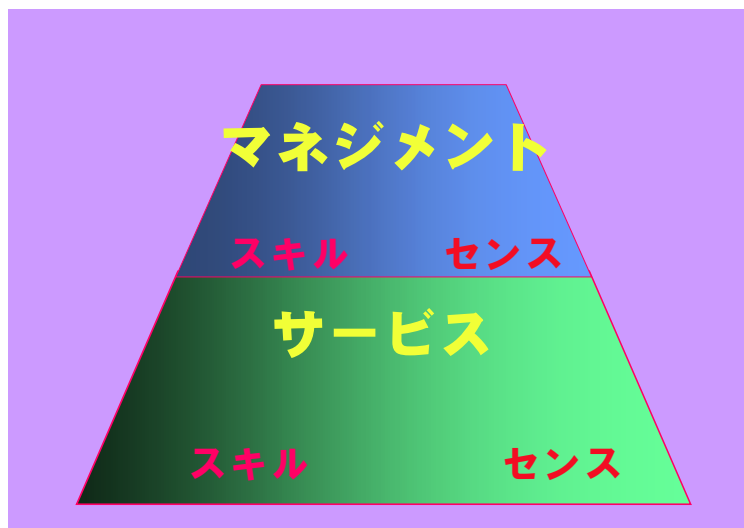
その他

司書のキャリア開発から考えるデジタル・ライブラリアンの育成

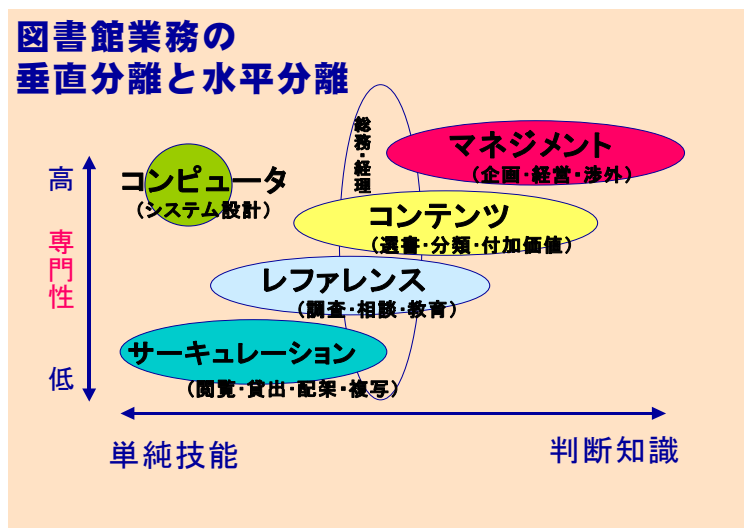
慶應義塾大学文学部 糸賀 雅児

1 デジタル・ライブラリアン研究会のねらいと活動

参照：糸賀 雅児 “デジタル・ライブラリアン研究会のねらいと活動” 図書館雑誌 100 巻, 2 号, p. 91-93, 2006.



2 図書館業務の分離と融合



○ 図書館のコアコンピタンスとアウトソーシング（雇用形態の多様化）

○ 司書の専門性と主題知識

3 司書のキャリア・パスの可能性

- 国立大学法人図書館の場合(図書系昇進型 63%、非図書系本省往復型 17%、非図書系大学事務型 20%)
cf. 井上梨恵子『国立大学における図書館職員のキャリアパス』慶應義塾大学大学院文学研究科
2006 年度修士論文において、国立大学法人 83 校の図書館部課長、事務長、その他 163 人を追跡調査した結果。

- 博物館学芸員の場合
cf. 「学芸員」 ⇒ 「上級学芸員」(第三者機関による審査)

- 私立大学図書館の場合

4 これからの司書のキャリア・デザイン

- 文部科学省これからの図書館の在り方検討協力者会議内にワーキング・グループ設置
 - ・ 司書課程の科目・司書講習の科目・司書研修をそれぞれ見直し

- Eーラーニング(ブレンディド・ラーニング)の可能性
 - ・ 国立国会図書館カレントアウェアネスE No.106 2007年5月16日発行
「■E644■ 図書館職員研修のブレンディド・ラーニングの進展状況」

- 現職者を対象にした大学院修士課程(例:慶應では情報資源管理分野を3年前に設置)
 - ・ 月曜、木曜の夜間と土曜の午後に開講
 - ・ 秋(9月)と春(3月)の2回入試
 - ・ 図書館実務に関わる筆記試験+面接

- 司書のキャリア・パスの整備
 - ・ 企画・経営のセンスと主題専門性のスキルをいつ(w h e n)、どこで(w h e r e)、どのように(h o w)身に付けるか?

デジタル・ライブラリアン研究会のねらいと活動

糸賀雅児

1. 図書館職員研修で感じたこと

筆者は昨年秋から今年初めにかけて、文部科学省が主催し公共図書館員を対象とする図書館地区別研修の講師を4地区で、また国立情報学研究所が主催し大学図書館員を対象とする大学図書館職員講習会の講師を2会場で、それぞれ務めた。これらの研修では、例年どおり1地区(もしくは1会場)4日間の研修プログラムが用意されていた。しかし、1人の職員を4日間も送り出せる図書館はそう多くなく、全日程受講できる職員の数は年々減っており、地区別研修では1日単位のコマ切れ受講者が多いのが現実である。それでも職員数の多い県立図書館や大規模国立大学図書館の司書を中心に、各会場50~70名程度の受講者が見られた。

問題は、研修受講の評価なのだが、公共図書館員向けの地区別研修では4/5以上出席し、なんとわずか1,600字程度のレポートを書きさえすれば、めでたく「修了証書」が授与される。しかも、そのレポート審査に講師陣はいっさい関与していない。大学図書館職員講習会にいたっては、レポート提出すら要件になっていない。日ごろ司書の専門性を主張する受講者の方々は、感想文でお茶を濁すようなこの程度のレポートで研修の成果が評価されることをどのように考えているのだろうか？

筆者が見る限り、現在の図書館職員研修の問題点は、大きく以下の4点に集約できる。

- 1) 受講者の研修成果が適切に評価されておらず、出席さえしていればよいものが大半である。
- 2) 講義中心の座学で、討論やワークショップ形式を取り入れたものはまだ少ない。
- 3) 事前に予習や準備をすることなく当日受講するだけであって、効率的とはいえない。
- 4) 数日にわたるものでも、総花的な詰め込み研修であり、体系的な思考や中長期の展望にたった経営感覚は身につけにくい。

2. デジタル・ライブラリアン研究会の活動

デジタル・ライブラリアン研究会(略称:DL研究会)は、こうしたわが国の図書館職員研修の現状に飽き足りない関係者を中心に、(株)伊國屋書店と(財)高度映像情報センターの協力を得て、2001年に発足した。DL研究会が毎年実施している事業として、DL講習会本コース、同講習会短期集中コース(公共図書館コースのみ)、図書館総合展フォーラムなどが挙げられる。

図書館をとりまく環境の変化に即応した司書のセンスとスキルが修得できるようにするため、実践的な研修プログラムの実施にあたって、実績と意欲のある研究者や業界関係者を講師に委嘱した。また、(株)伊國屋書店には、当研究会の事務局の運営にとどまらず、講習会開催にあたっての企画広報、準備等において全面的な支援をお願いし、文字通り「産官学」の連携を実現させている。

当講習会の「公共図書館コース」では、第5期までの受講者100名のうち84名に対して修了証を交付した。これは、受講さえしていれば、修了証が交付されるわけではないことを意味している。参考までに、当講習会の第5期「公共図書館コース」のプログラムおよび日程を以下に掲げておく¹⁾。

平成17年度 第5期デジタル・ライブラリアン講習会「公共図書館コース」プログラム・日程

- 第1日 5/16(月) 地域電子図書館の創造
 講師：柵富雄(富山インターネット市民塾)，糸賀雅児(慶應義塾大学)
- 第2日 5/30(月) 図書館業務におけるインターネットの可能性
 講師：大串夏身(昭和女子大学)
- 第3日 6/13(月) ICタグが拓く新たな図書館業務
 講師：永井祥一(講談社)，林勝之(奈良市立北部図書館)，鬼頭宗範(さいたま市立北浦和図書館)
 コーディネーター：金子哲弥(紀伊國屋書店)
- 第4日 6/27(月) 図書館による情報発信(1)
 講師：松本雅貴(市川市立図書館)，原田隆史(慶應義塾大学)
- 第5日 7/11(月) 図書館による情報発信(2)
 講師：原田隆史(慶應義塾大学)
- 第6日 7/25(月) 図書館による情報コンテンツづくり
 講師：阿部千春(福島県立図書館)，奥村和廣(都立中央図書館)
 コーディネーター：糸賀雅児(慶應義塾大学)
- 第7日 8/8(月) 地域電子図書館とデジタル・ライブラリアンの役割
 講師：山崎博樹(秋田県立図書館)，野末俊比古(青山学院大学)

3. DL講習会本コースの概要

DL講習会本コースは、「公共図書館コース」と「大学図書館コース」の2コースを、第1期(2001年)より第5期(2005年)まで毎年実施してきた。本コースの特色は、以下のような点にある。

- 1) ハイブリッド図書館の実現という一貫した目標を掲げた体系的な研修
- 2) 定員20名という少人数とメーリングリストの活用で講師と受講者相互の密度の濃いコミュニケーションを実現
- 3) 講義と演習とディスカッションによるバランスのとれた実践的なプログラム
- 4) 図書館の実務と理論，政策に精通した各領域の第一人者から成る講師陣
- 5) 座学だけではない，1人1台ずつのパソコンとインターネット環境
- 6) 適度な期間の反復と継続性を保つために隔週7回開講

本コースでの修了証の交付にあたっては、日程全7週のうち5週以上の講習会への出席と4,000字以上の修了レポートの提出を求めており、講師陣によるレポート審査に合格した人に対してのみ修了証が交付される²⁾。なお、「公共図書館コース」の修了レポートについては、他の図書館員の模範となるような優れたレポートを提出した者に対し「優秀デジタル・ライブラリアン賞」を授与している。受賞レポートは(財)AVCCの年次報告書に掲載、公表されており³⁾、DL講習会の質の高さは、これらの受賞レポートの水準に示されている。

ちなみに、これまでの「優秀デジタル・ライブラリアン賞」の受賞レポートは、以下のとおりである。

【第1期】

- ・ネットワーク系情報の対価徴収について考える
- ・公共図書館における利用者端末のありかた～資料・情報の窓口として～

- ・インターネット時代に司書が身につけるべきスキルとデジタルテキストの導入

【第2期】

- ・学校図書館の情報化—学校図書館間のオンライン化に公共図書館の果たす役割と課題—
- ・公共図書館のビジネス支援, 今できることを考える

【第3期】

- ・古典籍資料・情報の活用に関する一考察
- ・公共図書館の医学医療情報の提供に向けて

【第4期】

- ・「招待状」としてのメールマガジンの活用～情報発信手段の一つとして～
- ・公共図書館による地域振興

4. 講習会（公共図書館コース） 短期集中コースの開催

東京で開催する本コースには毎回定員を上回る申し込みがあり、特に地方在住者のなかには飛行機や新幹線で毎回通おうとする方もいらっしゃる。そうした方々が増えるにともなって、例年9月に「短期集中コース」を地方で開催することとした。

この「短期集中コース」は公立図書館の実務経験者を対象として、現地の県立図書館、図書館協議会等の協力を得て、基本的には連続3日間の研修プログラムとしている。ちなみに、これまでの開催地は、長崎（2002年9月）、長野（2003年8、9月）、静岡（2003年9月）、福岡（2004年9月）、北海道（2005年9月）となっている。

プログラム構成は本コースの短縮版だが、定員20名の少人数制、1人1台ずつのパソコンとインターネット環境による実践的な講習、これらにもとづく演習と討議（ディスカッション）の時間を確保している点では、本コースと変わらない⁴⁾。

5. 図書館総合展でのフォーラム開催

毎年11月末～12月に開催される図書館総合展で

は、2002年より当研究会主催のフォーラムを実施してきた。フォーラムのテーマは、その時々公共図書館における関心事を取り上げて、本研究会役員および外部識者による講演やパネル討論をおこなっている。特にここ数年は、公共図書館が直面する経営上の課題であるアウトソーシングと指定管理者制度をテーマに設定している。

6. デジタル・ライブラリアン研究会のめざすもの

図書館が永年、築き上げてきた蔵書とサービス実績とを基盤に、デジタル情報やネットワーク資源をも活用するハイブリッド図書館の実現に資する司書を、一人でも多く養成することが究極の目標である。そして、こうした試みが図書館職員研修のあり方に一石を投じ、養成・研修の見直しにつながることを期待したい。なぜなら、図書館の社会的評価の高まりは、司書一人ひとりのセンスとスキルの絶えざる向上なくしてはありえないからであり、それを達成する最短の道は、研修内容の充実と受講成果の適正評価にあると信ずるからである。

注

- 1) 「大学図書館コース」の第5期講習会プログラムについては、以下の当研究会のホームページを参照。
<http://www.dla.jp/dla01.html>
- 2) 修了レポートの審査方針は、(財)AVCCの平成13年度文部科学省補助事業報告書『IT時代の公共図書館「地域情報拠点としての付加価値サービス実現に向けて」』の第3章「優秀デジタル・ライブラリアン賞」受賞レポートの掲載にあたって」を参照。
- 3) 文部科学省補助事業「デジタルライブラリーの環境整備に関する調査研究報告書」(2002～2005年版)
- 4) 短期集中コースでは、修了レポートの提出および修了証の交付は行わない。

(いとが まさる：デジタル・ライブラリアン研究会代表、
慶應義塾大学文学部)
[NDC9：010.7 BSH：研修(図書館員)]

新しい学芸員制度のキャリアパスのイメージ(たたき台) (大学卒業学芸員の場合)

【現行制度】

学芸員

学芸員資格取得

大学等の
学芸員養成
課程修了
8科目12単位

【養成現場】

博物館における実務

博物館における実務
又は
大学院

大学(短大含む)等

【養成内容等】

上級学芸員資格取得(第三者機関による審査)

<一定期間以上(例:7年)の博物館における実務経験>

- 博物館での専門分野及び周辺領域に関する十分な研究業績
- 上記を活かした先進的な展示、教育普及プログラムの開発・実施
- 博物館の経営、展示、教育普及活動等の評価・改善

学芸員資格取得(国又は第三者機関による審査)

<1～2年の博物館における実務経験又は大学院における養成コース>

- 使命・計画、資料や展示の特性、経営上の課題等への十分な理解
- 上記に基づく資料の収集、保管、展示、調査、教育普及の実務
- 専門分野における基礎、博物館学に関する理論、研究活動
- インターンを含む技術の修得のための実務経験

基礎資格取得(大学)

<大学(短大含む)における学芸員養成課程の修了>

- 博物館学に関する基礎的で体系的な理論
- 資料の収集・保管・展示・教育普及等、基礎的理論と技術
- 専門分野に関する調査研究の手法、基礎的な研究能力
- 博物館と地域との関係、博物館経営に関する基礎的知識・技術
→現行8科目12単位を充実(例:博物館経営論、博物館教育の充実等)

【業務・役割】

上級学芸員

学芸員としての業務に加えて、経験に基づき先導者としての業務

<例>

- ・各博物館活動分野における先進的活動
- ・学芸業務全般にわたるマネジメント(中・長期計画の策定、事業評価・改善等)
- ・学芸員に対する指導・助言

学芸員

博物館法第三条に掲げる博物館の特性に応じた一般的な学芸業務

<例>

- ・資料の収集・保管・展示
- ・資料に関する専門的・技術的調査研究
- ・資料の保管・展示に関する技術的研究
- ・資料に関する目録・報告書等の作成等
- ・資料に関する講習会の開催等の教育普及活動
- ・他機関との連携に関すること

